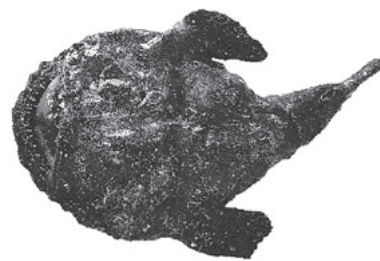


キアンコウ

Lophius litulon

地方名
あんこう、あんこ、
げろ（鱒ヶ沢町）



生態

- ①寿命：13年以上
- ②成熟：メス体長50cm以上
- ③産卵期：津軽海峡では6月～7月
- ④分布：北海道以南から朝鮮半島沿岸および東シナ海まで分布
- ⑤生態：主に水深200m以浅の大陸棚上に生息。水温の変化や産卵活動に伴い深淺移動を行う。水深50～80mの海底から容易に水面付近まで浮上することが可能であり、ミズドリを捕食していたという記録もある。
- ⑥成長：太平洋北部海域における年齢形質を用いた成長解析は無く、成長は漁獲物体長組成からのみ推定されている。下北地域県民局むつ水産事務所が実施した標識放流では、136個体が再捕されており、そのうち最も成長した個体は、全長40cm（推定体重1.1kg）で放流された個体が351日後の再捕時には59cm、2.9kgに成長した。結果から得られた関係式によると、津軽海峡から太平洋にかけて分布するキアンコウは、全長40cmの個体は6ヶ月後に49cmに、体重2.0kgの個体は6ヶ月後に3.3kgに成長することが推定された。

主な漁業

キアンコウはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲される。太平洋、日本海では底びき網、津軽海峡、陸奥湾ではさし網、底建網等での漁獲が多い。冬季及び春季から夏季に多く漁獲されるが、春季から夏季には価格が極端に安くなる。

漁獲の動向

キアンコウの漁獲量は、青森県海面漁業に関する調査結果書では平成17年から集計されており、それ以前の漁獲データはない。漁獲量は平成17年以降、平成21年まで900トン前後で推移していたが、その後は減少し、平成29年の漁獲量は526トンであった。

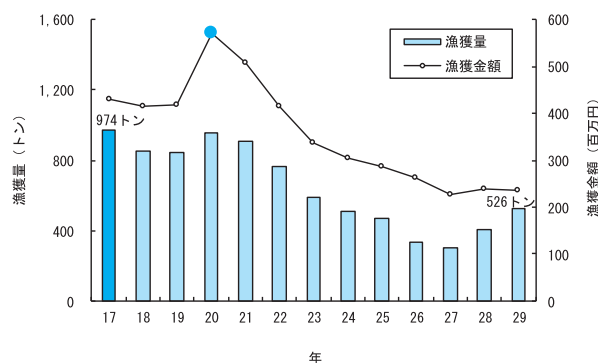


図 青森県におけるキアンコウの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

○風間浦村きあんこう資源管理指針（風間浦村きあんこう資源管理協議会 平成21年10月）

- ・全漁業種類において、体重2キログラム未満の生存個体の再放流について定めた。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・青森県産業技術センター水産総合研究所等は、外観による性判別法を開発した。今後は、背鰭第一棘による年齢査定法と併せた資源量推定の実現が期待される。

Takeya Y, Takatsu T, Yamanaka T, Shibata Y, Nakaya M. Sexual dimorphism in the bulbous nasal tube size of yellow goosefish *Lophius litulon* off Aomori Prefecture, northern Japan. *Nippon Suisan Gakkaishi* 2018; doi:10.2331/suisan.17-00031 (in Japanese with English abstract).